

青少年赤十字で取り組んでいる1円玉募金（青少年赤十字活動資金）の使い道として、2017年4月から、ネパールに向けては「持続可能な水と衛生環境を整備しよう」といった取り組みが進められています。

18年12月22～29日で実施された「青少年赤十字海外支援事業ネパールスタディーツアー」に全国の高校生9人のうち本県から青森南高校2年の秋田流有さん、団長として私が選出され、募金がどのように使われているかを現地に確認に行きました。

今回、事業対象となっている山岳地帯で十分な衛生環境が整っていなかったシャンジャ郡とパルバト郡の二つの学校へ訪問しました。どちらの学校も大勢の生徒たちが笑顔で盛大に迎え入れてくれました。文化交流会など、歌やダンスと大いに盛り上がりしました。

そんな中、支援によって完成したトイレや簡易水道を整備した手洗い場を見学したと

寄稿 柴田女子高・中村友是教頭 青少年赤十字ネパールツアー

ころ、手洗いの方法や青少年赤十字のマークが壁に描かれてあったり、石鹸を使い十分な水で手洗いをしているとこ

ろを笑顔で見せてくれたりと、こちらも自然と笑顔になりました。トイレから出てきたあどけない小さな男の子も、手洗い場で石鹸を使い手洗いし笑顔で走り去りました。こんなに小さな子でも手洗いが習慣化していたので、とても嬉しく幸せな気持ちに

た。パルバト郡の学校では、近くに住む生徒や先生の家に訪問してコーヒーマスの苗を植樹するコーヒープランテーションのサプライズがありました。植樹後、ネパールメンバーと

自分の名前が入った看板を設置し、お互いに笑顔で記念撮

影。やがてこの樹木が大きく成長し、多くのコーヒーマス収穫できるようになれば現地収入を得られるので、希望の木となりました。

二つの学校訪問のほかに、ネパール赤十字社での地震復興支援事業のレクチャー、ペワ湖のボート体験、カトマンズ市内観光でのダンバール広場、クマリの館で生きた女神

募金の成果と課題実感



コーヒーマスの苗を植樹した後、現地の人と記念撮影する秋田さん（右から2人目）



シャンジャ郡の学校長から竹かごの記念品を贈呈された筆者（左）

である「クマリ」との初顔合わせ、シヴァ神を祭るネパール最大のヒンドゥー教寺院「パシパティナート」など、ネパールの人、自然、食文化、宗教、教育と様々な現実に触れることができました。

今回の貴重な8日間には青少年赤十字の実践目標「国際理解・親善」を体現したものでした。ネパールの現実を知った9名から日本全国の青少年赤十字のメンバーに想いが広まって、より大きなネパール支援ができるように尽力します。

弘前 中南黒

弘前支社 0172(04)5151
FAX(04)8035

黒石支局 0172(02)2351
FAX(02)8162

平川通信部 0172(04)80029
FAX(04)8008

*最